

**A** 料金を急には下げることにはできません。水道料金の回収率は100%を下回っており、一般会計からの繰入金によって黒字を確保している状態です。今後も節水機器の普及や人口減少などによる水道使用量の減少や、それに伴う料金収入の減少、施設更新費用などの支出の増加が見込まれ、経営環境の厳しさは増すと予測されます。将来の施設更新に備え、内部留保の資金を蓄えるとともに、経営改善に向けて努力していきます。

## 産業振興

- Q** 杉などの森林資源の活用や治山について、これからどのようにやっていくのか。
- A** 本年度から木質バイオマスストーブ等設置補助金の適用範囲を拡大しました。ペレットストーブだけではなく薪ストーブも対象となり、杉などの間伐材をより活用できるようになりました。国の森林環境譲与税も開始され、間伐などを実施する県や市などに税が配分される予定となっています。それを活用して、里山の再生や災害に備えて森林を整備していきたいと考えています。
- Q** 雪の利活用でPRする雪は、どこに貯蔵しているのか？ 現在、市で貯蔵している雪は2,000㎡とのことだが、これからさまざまな依頼があった場合、不足してしまうのでは？
- A** 雪の貯蔵場所は、大原運動公園のグラウンドの近くです。PRの際に使用する雪は、当市の雪だけではなく、全国で雪国と呼ばれる地域が連携して提供できるように取り組んでいく予定です。当市やほかの地域が雪を肩代わりして貯蔵・運搬するなど、さまざまな方法を検討していきたいと考えています。

## 行財政改革・市民参画

- Q** 指定避難所は、公共施設でないといけないのか？ 住んでいる地域によっては、現状の指定避難所に行くことが難しい。高齢者などの要支援者には切実な問題だ。
- A** 指定避難所は市が指定するものであり、災害に耐えうる耐震化が施され、そこで一定期間の避難生活を送ることを想定しているため、公共施設などに限られてしまいます。避難勧告などは昼夜を問わず発令されることから、状況によってはすぐに指定避難所に行くことが困難な場合があります。そのため、まずは各行政区で取り決めている一時避難場所への一時避難や、水害時には建物の上層階への垂直避難が有効な場合もあります。有事の際には、市が先頭に立ちますが、まずは自分の身は自分で守ることを意識し、日ごろから防災マップなどを活用して、災害時の状況や避難経路を確認していただきたいと考えます。

### 参加人数

形式	会場	参加人数
従来制 (市が会場などを指定)	後山集落センター、辻又地域多目的センター、柘窪集落開発センター、清水ふれあい会館、南魚沼市図書館 多目的室(日中、夜間開催)、子育て支援センター 子育ての駅「ほのぼの」(日中開催)、雪国おくにじまん会館、塩沢公民館 講堂	126人
申込制 (候補日から行政区単位で申込み)	大崎農業会館〔大崎区〕、畔地集会所〔畔地区〕、岩山集落開発センター〔岩山・町屋・境川区〕、妙音寺集落開発センター〔妙音寺区〕、柳古新田集落センター〔柳古新田区〕	117人
合 計		243人

